

3

一番の気がかりの自由記述内容

「現在の一番の気がかり」の具体的な内容として書かれた自由記述から、代表的な母親の声を以下に列記した。

兄弟間でのしつけのむずかしさや子どもをしかることを自責する母親

「子どもをほめて伸ばす本があるけれど、母親にも感情があつてうまくいきません。友だちもしかり方で悩んでいる人が多い。いい母親になろうと思っても、子どもをダメにするしかり方で自己嫌悪に陥ります」(年中男子/第1子/33歳)

「下に弟と妹がいて、その2人と母である私とのかかわり方。嫉妬・甘えをどう受けとめるか、それが気になっている」(年長男子/第1子/31歳)

「精神的に余裕がなく、十分に子どものことを考えてしかる、ほめるができず、フォローもできないときは反省する。とてもユニークな子なので、一般常識でしかるとよい面をつぶして画一化してしまうのではないかと心配」(小1男子/第2子/38歳)

母親も子どもも大変な友だちづきあい

「親自身が人とのつきあいが得意でないと、子どもたちもなかなか友だちができにくい。最近は親同士が仲よくないと、子ども同士も深いつきあいができない」(年中女子/第2子/32歳)

「どうしても一緒に遊ばせたくない友だちが何人かいます。どんな子にもいいところはたくさんあるのだからと、しつけの本には書いてあるけれど、悪いところは悪い、いいところはいいとはっきり言ってもいいのではないのでしょうか」(年長女子/第2子/33歳)

「保育園の0歳から同じ子たちが一緒に学校へ上がります。小学校も少人数で1クラス。

今まで保たれた子ども同士、親同士のバランスが今後どうなるか気になる」(年長男子/第1子/29歳)

「子どもの友だちについて、親はなるべく口をはさみたくはありませんが、ついいうるさく言ってしまう。親同士の関係もあるので、知らず知らずに私が子どもの友人を選んでいくようです」(小1女子/第1子/32歳)

いじめが心配

「はじめて幼稚園という集団に入ってどのように成長していくか。年齢の低い子どもの犯罪やいじめがある中で、どのような影響を受けていくか心配です」(年中男子/第1子/28歳)

「上の子も下の子も気が弱いので、いつ、いじめにあっても大丈夫なように強い子になってほしい。友だちの言いなりになったり、ハサミで持ちものを傷つけられて帰ってくるので心配でならない」(小2女子/第2子/35歳)

「ほんの小さな事件がきっかけでいじめが始まり、低年齢化しているらしい。それが、いつどんな形でわが子にかかわってくるかと思うと心配で不安。それに負けない精神力をと思っはいるのだが…」(小2男子/第3子/39歳)

習い事で忙しい・遊び場がない

「少子化時代で、幼児期から勉強ばかりで将来すばらしい人生が送れるのだろうか。しかし、やらなければ取り残される」(年少男子/第2子/29歳)

「友人と多く遊ばせたいが、習い事で時間が足りない。自然と寝る時間が遅くなってしまふ」(年長女子/第1子/30歳)

「家のまわりは住宅地でボール遊びや大さわがができない。友人ともファミコン同士のコミュニケーションばかり。時間制限して他

の遊びをしないと言っても、何をしたらいいのか思いつかない様子。昔のように工夫して遊ぶということがなくなり、将来人間性などのような影響をおよぼすのか心配」(小1男子/第2子/41歳)

環境汚染・社会不安・商業主義、子どもを安心して育てられない

「流行グッズを親にせがんで買ってもらうわりには、簡単に友だちの物と交換したり、あげたりしてしまう。親がお金を出して買ってあげたことも、自分の物を大切にすることの意味も何度言ってもわからない。これを友だちづきあいとみるべきか、しかるべきか、あまり怒るとウソをつくようになった」(年少男子/第2子/36歳)

「年々、子どもたちを取り囲む環境が悪くなること。ダイオキシンやオゾン層の破壊など大気汚染、それに関連して農作物や生鮮食品などの安全性が気になる」(年長女子/第3子/34歳)

「生協加入や自然食品の店を利用して安全な食品を求めようにはしていますが、遺伝子組み替え食品や輸入食品などの問題がたくさんあり、これからの子どもの将来への影響が心配です」(小1男子/第1子/35歳)

「通り魔など恐ろしい事件が多発しているので、一人で外に出すときなどは、とても不安である」(小1女子/第2子/34歳)

「商業主義に子どもの心が食い物にされているようだ。自分の子どもを含め今の子どもたちは、ファミコンや次々と新しい流行の物に関心がいき、それが遊びの中心になっている。豊かに見える世の中でおとなも子どもも本当の豊かさを実感していない」(小2男子/第2子/41歳)

母子家庭での実情

「園の先生が離婚や母子家庭を『マイナスのもの』としか認識しておらず、そのため子どもが辛い思いをしていることをぜんぜんわかっていない。もっと、働く女性や離婚の現状などに対して理解と協力が欲しい」(年中男子/第1子/32歳)

「母子家庭で父親の愛情を注ぐことができない。また仕事で24時間体制のため、そんな生活の中で性格が曲がったり、いこじになつたりしないかと心配」(年中女子/第2子/37歳)

「夫と別居中で、夫と子どものコミュニケーションのとり方などが悩み」(年中男子/第1子/35歳)

子育てしながらの自分さがし

「子育ての中で自分は何のために存在しているのかと問われれば、子どものためだけで、自己は見失ってしまう。気がつくと、一人の女性とは扱われず、常に“〇〇ちゃんのおばちゃん”とか、自分より年上の男性からも“お母さん”と呼ばれている。その扱いに耐えていかなければ、自分の精神が病んでいくだけなのだろうか」(年少男子/第1子/28歳)

「子どもを3人育てているうちに、自分のことを全部どこかに置いてきてしまったようで、何かを始めたいけれど、何をしたいのか、よくわからない」(小1女子/第2子/33歳)

専業主婦も働く母親も2人目の出産に心が揺れる

「看護婦の仕事は体力的にも精神的にも疲れます。第1子が早産で低体重児で生まれたため、第2子出産はどうしようかと。仕事と育児の両立は大変」(年少女子/第1子/31歳)

「私の計画では、来年2人目をと思い、今のパート勤めも近くの事務なので、ぎりぎりまで働き、その後も復帰するつもりでいた。舅が亡くなり、義母と同居のために引っ越しして一戸建てを購入予定。病身の義母の世話、ローンの返済など仕事に追われて、2人目の出産のことやこれからの生きがいや自分の時間は作れそうになく、ゴルフのできる主人がうらやましいです」(年少女子/第1子)

「子どもが小学生になって、自分の時間ができたら、パートに出たいが、社会に追いついていけるか心配。二人目を産むと子育て期間が伸びるので、ますます社会に取り残されそうな気がする」(年長女子/第1子/34歳)